

「わが家の守護神—アシダカグモ」

同窓会会員：石橋 正彦

投稿日：2016年8月2日

夏の夕方になるとしばしばわが家の風呂場に大きなクモが現れる。徘徊性のクモで、網を張ったり、糸を出したりはしない。一番長い第2脚を拵げると10cm以上にもなる。稀にこれより一回り大きなやつも一緒に現れる。どうも夫婦らしい。このクモ、日中はどこに隠れているのか、姿が見えないが、暗くなるとあらわれる。電気をつけてそばまで近づいてもジッと動かないが、足に一寸でも触ってみたいすると素早く動き、物陰に隠れてしまう。これがわが家の守護神のアシダカグモ（足高蜘蛛）である。



写真でも明らかなように、頭胸部に黒いV字の模様があり、これが雄の特徴とのこと。雌は滅多に出てこないなので確認していないが、雌にはこの模様はないようだ。なんでもインドあたりが原産地で、ゴキブリ退治の為に江戸時代に導入したとの説もあるくらいで、家の中で専らゴキブリを捕食して育てているらしい。2年で大人になるそうであるが、このクモなかなかの長寿で、雄が約5

年、雌は約7年生きる由。クモの世界でも女性の方が長生きらしい。

テレビでよく紹介されるタランチュラという毒蜘蛛と印象が似ていることから、これも毒蜘蛛と勘違いされることがある様だが、人間に対して影響を及ぼすような毒性はない。もっとも手で捕まえたりすると反抗して噛むこともあるので、そっとしておくのが無難である。



前面から良く見ると可愛い目が8つ。1列4個ずつ、2列に並んでいる。クモは単眼が8個というのが多いそうであるが、0・2・4・6個の目を持つ種類もあるようだ。0個というのは洞窟の中に棲みついている種類らしい。クモの目だけとっても、数・配置など調べだすときりがないうで、いつか手近な蜘蛛を捕まえて数や配置を調べてみようか。

頭胸部には4対の脚（歩脚）があるが、このクモは前3対が前向きになっていて、4対目だけが後ろ向きになっている。口の部分には先が鎌状に鋭くなった鋏角（上顎）がある

が、この写真では見えない。そのわきには1対の触肢があり、さらに歩脚へと続く。それにしてもアップするとずいぶん毛深くて、味のある顔である。

最近アシダカグモのファンが増えていて、ペットショップで売られているそうだが、わが家では勝手に入ってきて棲みついているので、買いに行く必要はない。アシダカグモが棲みついているおかげで、ゴキブリが多分少なくなっているのだろうが、それでもゴキちゃんは時々出没する。ま、アシダカグモの餌として補給の必要がないのでそれはそれとして良いのだろう。ゴキブリ嫌いなかみさんも、蜘蛛は気味が悪いけど、ゴキよりまし、ということでわが家の守護神を黙認している。

アシダカグモが現れてくれたおかげで、思わぬ勉強が出来た感じ。さて次は何が出て来るか、楽しみである。